

2 年 1 組

「命って大事だね」 ～植物・生き物とのくらし～



「命って大事だね」

4月、Aさんたち3人で育てているいちごが初めて赤く実りました。「ちょっとかじられちゃっているけれど食べられるところを分けて食べたい」とAさんが言いました。4つに分けて切って食べると、「おいしい、ちゃんといちごだ。あまずっぱくておいしい」と目を見合わせて喜んでいました。彼女たちが大切にお世話をしていた姿、虫がついて困っている姿などずっと側で見てきた私にとっても、とても嬉しい出来事でした。



なぜ、学校でいちご（植物）を育てたり、動物を飼ったりするのかということについて話した際にAさんは、「命を大切にしたい。嬉しい気持ちになる。この1組のみんなと新しい命をつくりたい。新しいことを発見したい」と自分の気持ちを綴っていました。Bさんは、「嫌なことがあってもいちごさんや動物さんを見ると元気になって嫌なことを忘れられる」と、学校生活がより楽しくなることに希望を膨らませていました。Cさんからは、「動物を大切に育てて、いちごを大切に育てて、命を守る」と力強い覚悟も語られていました。子どもたちの思いをずっと聴いてきた私は、この子たちなら動物を飼っても大切に育て、豊かなくらしをつくっていくことができるだろうと思っています。まだ幼い子どもたちなので、自分の意見を押し通そうとすることがあって当然だと思います。その中で、植物や動物の声なき声を聴き、友と相談し自分を見つめていくことで、自分を成長させていけるのではないかと考えています。大切なのは、自分の思いと相手の思いの交わる場所を感じ取ることだと思います。子どもたちと、ドキドキワクワクする毎日をつくっていくことが楽しみです。

どうして『まずい』いちごになっちゃったのかな

登校して来るとすぐにいちごの様子を見にいく子どもたち。実ったいちごを食べてDさんは、「まずい。すごいすっぱい」と言いました。もう一つ食べても、「まずい」と言い顔をしかめました。「どうしてぼくのいちごはまずいんだろう」とつぶやくと、「どんな味なのかわからないから、次は他の人にも食べてもらったらどうか」と友だちが提案しました。3個目は4等分をして3人の友だちに食べてもらいました。Eさんは、口に入れると、「うんうん」と頷いていました。Fさんは、「うん。おいしい、これはおいしい。すっぱい」。Gさんは、「すっぱくておいしいね」と言いました。Dさんに、「今日のいちごはどうだった」と聞くと、「あまずっぱかった」と言いました。Gさんが、「栄養がちゃんといったんじゃない」と言っていました。Dさんは、少し安心した様子でした。さて、どうして、「まずい」いちごと「あまずっぱい」いちごができるのでしょうか。他にも、「ぼくたちのいちごさんは、葉っぱは元気だけれど全然お花が咲かない」「わたしたちのは、虫がたくさんいて、元気がない」など、いちごを心配する声がたくさん挙がっていました。子どもたちからは、「いちごの先生に聞きたい」という声があちこちから聞こえてきました。そこで、調べたところ、長野市富竹にいちごの農園があることがわかりました。子どもたちに伝えたとこ、「いちご先生に会いたい!」「聞きたいことがたくさんある!」と言い、満場一致でいちご農園さんへ出かけることになりました。



いちごの森みたいだね

4月30日、みんなでみのり農園さんのいちご先生に会いに出かけてきました！ いちごのハウスに入ると暖かく、優しいいちごの匂いがしてきました。最初は、子どもたちからの質問に農園の方が答えてくれました。「ランナーは切った方がいいよ。栄養がそっちにいつしてしまうからね」とお話があると、「Hくんの言っていた通りだ。Hくん、やっぱりいちご博士だね」と話していました。Hさんは、家族といちごの体験活動に出かけたり自分で調べたりしていたので、I組では「いちご博士」と呼ばれています。さて、今か今かといちごを目の前に話を聞いていた子どもたちですが、いよいよいちご狩りのスタートです。子どもたちは、一斉にいちごの元へ向かって行きました。ずっと奥まで真っ赤ないちごが実っていました。ちょうど子どもたちの目線あたりにいちごがあり、しゃがむといちごの下をくぐることができました。Iさんは、「いちごの森みたいだね」と言っていました。本当に夢の世界に迷い込んだように見渡す限りのいちごでした。普段スーパーで買って食べるいちごとは比べ物にならないくらい大きないちごがたくさんありました。Jさんは、「あっち側は練乳をつけなくても甘くておいしいよ。こっち側は練乳をつけるとちょうどいいよ」と、品種によっての味の違いを感じていました。Kさんが、「変な形のいちごがあるよ」というとLさんは、「これ長いよ、長いのうまいよ」といちごを頬張りながら伝えていました。いちごを食べながらも子どもたちは、いろいろなことを発見していました。葉っぱがとっても大きいこと、中には枯れているいちごもあること、ハウスの中は暖かいのにいちごは冷たいことなど、自分たちが育ててきた経験やいちご先生から聞いたことなどを手がかりに見つけていました。みのり農園さんのいちごを見たり食べたりして更に知りたくなったこともあったようです。Mさんは、思い出作文に、「いちごがりに行って、わたしはもっともの知りになりたいです」と綴っていました。



学校に戻ってきて早速自分たちのいちごを観察する子どもたち。Nさんたちは、出かける前に収穫していたいちごを食べて味比べをしていました。この日の給食にいちごジャムが出ました。「このいちごジャムのいちごの品種はなんなんだろう」とつぶやく声が聞こえてきました。そういうところに目がいくようになったのだと、感心しました。もうすっかりいちご博士の仲間入りをしているような気がします。これからのいちごのお世話にこの経験を生かせるといいなと思います。



何を飼うか決めるのが辛い

I組では、動物飼育についての話し合いを重ねていました。6月に動物園へ行き、動物に触れる体験をしてきました。その後も話し合いは続き、様々な感情がうごめく中、候補を絞っていきました。「絞って考えていくことは辛いけれど、でも、そうしないと何を飼うのか決まらないよ」とOさんが言いました。馬を飼いたいと思っていた子もいましたが、「馬は飼わない」とみんなで決断しました。その時、Hさんが何度も、「悲しい」と言って涙を流していました。その涙は、飼えないこともそうですが、決断して候補から消えていくことに対する「悲しい」でもあったように感じました。実際には一緒に暮らしていませんが、何を飼うか考えてきたこれまでの時間も心の中では動物とのくらしがすでに始まっていたのかもしれませんが。この辛さを乗り越え、飼う生き物を決め、その生き物を迎えたときの喜びは、きっと大きなものになるような気がします。

